

DP (教育目標)

- DP1 日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。
- DP2 人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。
- DP3 国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。
- DP4 専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	SDGs該当項目
基礎論	国際文化基礎論(研究/調査法)	2	必修	修士論文執筆に必要となる基礎的なスキルを身につける。とくに各自の専門分野において、自立的に課題を設定し、適切な方法で解決を導く上で求められる「調べる力」の養成を目的とする。また、研究倫理についても学ぶ。文献調査と整理の方法を重点的に扱うが、課題の立て方、研究史の整理、参考文献のまとめ方などについても検討する。受講生の主体的な参加を期待する。		◎			
	国際文化基礎論(発表/論文作成)	2	必修	他の研究者、同僚の論文を分析し、基本となる論文作成の形式を身につけ、そのうえで自らのスタイルで論文が書けるようになることを目標とする。また、研究発表の仕方についてもその基本を理解し実践できるようになる。前半で論文の書き方、後半で発表および論文作成の実践を行う。オンラインで課題を表示・配付し、その課題に沿って論文作成と発表の練習を行う。		◎			
日本文化分野	日本文化研究(歴史)A	2	選択	日本文化の歴史について、修士課程において専門的に研究していくための基本的な知識と視点を身につける。日本文化を歴史的に探究していくために必要な知識と視点を提供する。授業では代表的な日本文化論や近代以降の西洋の日本観・日本論を取り上げる。本講座で得た知識と視点を自身の研究に生かしてもらいたい。指定文献で読んでおく箇所は前の時限で指示する。	◎		○		
	日本文化研究(歴史)B	2	選択	日本の近代史に関して、修士課程において専門的に研究していくための基本的な知識と視点を身につける。日本近代の思想や文化を歴史学の立場から研究していくためのいくつかの視点を解説する。2022年度は、大正時代の文化史上の論点について、最新の研究成果の動向を概観しながら、何が論点となっているかの把握に努める。歴史だけでなく、近代文学専攻の受講者にも配慮し、大正時代当時の文学作品も積極的に取り上げる。	◎		○		
	日本文化研究(文学)A	2	選択	この授業の到達目標は下記の通りである。 ・文学研究の視点や理論を学び、自身の研究において適切な方法を選択することができる。 ・古典文学研究と近現代文学研究の共通点と相違点を理解している。 この授業は、日本文学研究の視点や理論をテーマとしている。テキストを手掛かりに日本文学研究の視点や理論に対する理解を深める。0章は講義による。1章以降は、履修者が自分の関心や研究課題に応じて項目(術語)を選択し、内容の要約を発表する。履修者同士で発表内容に関する質疑応答を行う。古典文学研究はじめ、必要に応じて、別の文献から課題を提示する。	◎		○		
	日本文化研究(文学)B	2	選択	文学研究の視点や理論について学び、自身の研究において適切な方法を選択できるようになることを目指す。テキストを手掛かりに日本文学研究の視点や理論に対する理解を深める。履修者が自分の関心や研究課題に応じて項目(術語)を選択し、内容の要約を発表する。発表に基づき、履修者同士で発表内容に関する質疑応答を行う。必要に応じて、別の文献から課題を提示する。	◎		○		
	日本文化研究(言語)A	2	選択	この授業では、認知言語学における意味拡張を学び、多義語の分析を行う。意味拡張の説明では、日本語と英語の例から学ぶ。理論的な枠組み(メタファーやメトニミーなど)を理解し、日本語の事例と、可能ならその他の言語の事例も考えることで、日本語についての専門的知識と研究方法を身につけ、日本語をこれまでとは異なる視点から理解する。	◎		○		
	日本文化研究(言語)B	2	選択	この授業では、語用論のポライトネス理論など語用論の理論を学び、日本語の事例を分析した文献も読む。いずれも、日本語と英語の例を用いて説明する。理論的な枠組み(発話行為やグライスの理論、ブラウンとレヴィンソンのポライトネス理論など)を理解し、日本語の事例と、可能ならその他の言語の事例も考えることで、日本語についての専門的知識と研究方法を身につけ、日本語をこれまでとは異なる視点から理解する。	◎		○		
	日本文化演習I	2	選択	日本文化(主に日本史・日本文学・日本語学)研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。研究対象に対する分析の観点や手法に加え、文献の検索方法・収集方法、電子データベースの使い方、書誌などに関する基本的な技能についても習得することを目的とする。研究の方法や視点に関する講義と演習を行う。履修者の関心に沿って隣接領域も扱う。参考文献の中から各自関心のある資料と章の梗概を発表しながら研究の視点を学び、各自の研究対象とテーマを絞り込んでいく。		◎			
	日本文化演習II	2	選択	日本文化(主に日本史・日本文学・日本語学)研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。演習Iをふまえて研究テーマを設定したうえで、先行研究を適切に把握し、各論の要旨や研究史・研究動向をまとめられるようになることを目標とする。研究テーマについては、実現の可能性に留意し、他分野の研究との関連性を視野に入れて学際性を含んだものに設定する。併せて適切な研究方法を選定する。なお、専攻全体で学期半ばに中間発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎			
	日本文化演習III	2	選択	日本文化(主に日本史・日本文学・日本語学)研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。演習I、IIをふまえて、研究対象に対する調査・分析、考察を進め、演習内での発表や討議を重ねたうえで、論文の章立てや論述の流れを考えていく。参考文献の把握と読解を進め、データ収集等の調査が必要な場合は計画を立て実行する。なお、専攻全体で学期半ばに論文作成計画発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎			
日本文化演習IV	2	選択	日本文化(主に日本史・日本文学・日本語学)研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。演習I、II、IIIをふまえて、研究の成果について演習内での発表や討議を重ねたうえで、修士論文にまとめていく。なお、学期半ばに主指導及び副指導に対して口頭で論文概要発表を行い、修士論文提出の可否について判断を受ける。		◎				

比較文化分野	比較文化研究(比較文化) A	2	選択	比較文化の中でも異文化交流史の分野について、外国人の見た幕末・明治というテーマにしぼって考察していく。文献読解を通して、異文化の双方向的な関係について検討する。異文化交流史の研究に触れ、研究方法を学ぶことを目標とする。具体的には、幕末から明治にわたる日米交流史の講義の後、外国人による日本観察に関する2つの文献を読む。一つはアメリカ人の明治日本観察とその後の思想的变化。もう一つはアメリカ人に限定されない欧米人一般の明治日本観察をトピック別に整理したものである。はたして外国人たちは日本で何をどのように記述したのか。時代背景、異質性、共感、客観と主観、相対化、文化の伝播、文化変容などをキーワードにして、文献を読解する。	◎		○		
	比較文化研究(比較文化) B	2	選択	比較文化の中でも異文化交流史の分野について、外国人の見た幕末・明治というテーマにしぼって考察していく。文献読解を通して、異文化の双方向的な関係について検討する。異文化交流史の研究に触れ、研究方法を学ぶことを目標とする。具体的には、幕末から明治にわたる日米交流史の講義の後、外国人による日本観察に関する2つの文献を読む。一つはアメリカ人の明治日本観察とその後の思想的变化。もう一つはアメリカ人に限定されない欧米人一般の明治日本観察をトピック別に整理したものである。はたして外国人たちは日本で何をどのように記述したのか。時代背景、異質性、共感、客観と主観、相対化、文化の伝播、文化変容などをキーワードにして、文献を読解する。	◎		○		
	比較文化研究(比較文学) A	2	選択	欧米と日本のエコクリティシズムの思想を理解し、環境の視点から日本の現代文学を分析できるようになる。前半は欧米の環境思想について、後半は現代日本文学についての講義と質疑応答・ディスカッションが中心となる。毎回出す課題の読み物を読んで授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加してクラスに貢献することが重要である。	◎		○		
	比較文化研究(比較文学) B	2	選択	欧米と日本のエコクリティシズムの思想を理解し、環境の視点から日本の現代文学を分析できるようになること、比較文化研究(比較文学) Aで学んだ内容を実践的に応用できるようになることを目標とする。エコクリティシズムと現代日本文学についての講義と質疑応答・ディスカッションが中心となる。毎回出す課題の読み物を読んで授業に出席し、ディスカッションに積極的に参加してクラスに貢献することが重要である。	◎		○		
	比較文化研究(英語文学) A	2	選択	この授業では英語圏の小説を取り上げ、作品の検討を通してその作品が書かれた時代と地域の特徴を考察し、各自が取り組んでいる研究テーマとの比較を踏まえて比較文化研究に取り組むための視野を広げることを目的とする。英語圏の小説を原作で読むことで英語力を高めながら、作品が書かれた時代と地域の知識も得られるようにする。各自の研究テーマの視点から発言を行うことにより、受講生同士で情報提供・意見交換し合い、視野を広げられるようにする。	◎		○		
	比較文化研究(英語文学) B	2	選択	この授業では英語圏の小説を取り上げ、作品の検討を通してその作品が書かれた時代と地域の特徴を考察し、各自が取り組んでいる研究テーマとの比較を踏まえて比較文化研究に取り組むための視野を広げることを目的とする。英語圏の小説を原作で読むことで英語力を高めながら、作品が書かれた時代と地域の知識も得られるようにする。各自の研究テーマの視点から発言を行うことにより、受講生同士で情報提供・意見交換し合い、視野を広げられるようにする。	◎		○		
	比較文化研究(比較考古学) A	2	選択	「沈黙資料」と言われる考古学資料の特色や性格を踏まえ、多様な情報を収集・整理し、時代を画する大きな枠組みを描出する手法、及び考え方を修得する。この点、連続する一定の時間幅の中で、個別差異を内包しながら形成され続けた集団墓地の分析は重要なテーマの一つである。比較的規模の大きな集団墓地を例として取り上げ、具体的な分析を通して、時期区分の方法、墓葬の分類基準の設定、差異の意味づけ、時期的変遷の把握、作業仮説の立て方、及びその検証など、「比較文化」の視点を交えながら実践的に学修する。	◎		○		
	比較文化研究(比較考古学) B	2	選択	「沈黙資料」と言われる考古学資料の特色や性格を踏まえ、多様な情報を収集・整理し、時代を画する大きな枠組みを描出する手法、及び考え方を修得する。この点、連続する一定の時間幅の中で、個別差異を内包しながら形成され続けた集団墓地の分析は重要なテーマの一つである。比較的規模の大きな集団墓地を例として取り上げ、具体的な分析を通して、時期区分の方法、墓葬の分類基準の設定、差異の意味づけ、時期的変遷の把握、作業仮説の立て方、及びその検証など、「比較文化」の視点を交えながら実践的に学修する。	◎		○		
	比較文化研究(比較民族文化論) A	2	選択	社会史およびエスノヒストリーの視点を身に付け、基本的な研究方法を学ぶことを第一の目標とする。つづいてネーション、ナショナリズム、ナショナル・アイデンティティ、歴史の記憶といったキーワードを中心に近代化過程における国家統合の道具として「国民」や「伝統」の創造、文化的象徴の表象についての学びを通して、正確に文書(専門用語も含め)を読み込む訓練をも目標とする。社会史、エスノヒストリーの古典を講読して歴史学の視点を深く学ぶ。	◎		○		
	比較文化研究(比較民族文化論) B	2	選択	「比較文化研究(比較民族文化論) A」に引き続き、社会史およびエスノヒストリーの視点を身に付け、基本的な研究方法を学ぶことを第一の目標とする。つづいてネーション、ナショナリズム、ナショナル・アイデンティティ、歴史の記憶といったキーワードを中心に近代化過程における国家統合の道具として「国民」や「伝統」の創造、文化的象徴の表象についての学びを通して、正確に文書(専門用語も含め)を読み込む訓練をも目標とする。個別事例について読み込み、日本、アイルランド、イングランド、スコットランドなどの事例から学ぶ。社会史、エスノヒストリーの古典を講読して歴史学の視点を深く学ぶ。	◎		○		
	比較文化演習Ⅰ	2	選択	比較文化・比較文学・英語文学・比較考古学・比較民族文化学の研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。研究対象に対する分析の観点や手法に加え、文献の検索方法・収集方法、電子データベースの使い方、書誌などに関する基本的な技能についても習得することを目的とする。研究の方法や視点に関する講義と演習を行う。参考文献の中から各自関心のある資料と章の梗概を発表しながら研究の観点を学び、各自の研究対象とテーマを絞り込んでいく。		◎			
	比較文化演習Ⅱ	2	選択	比較文化・比較文学・英語文学・比較考古学・比較民族文化学の研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。演習Ⅰをふまえて研究テーマを設定したうえで、先行研究を適切に把握し、各論の要旨や研究史・研究動向をまとめられるようになることを目標とする。研究テーマについては、実現の可能性に留意し、他分野の研究との関連性を視野に入れて学際性を含んだものに設定する。併せて適切な研究方法を選定する。なお、専攻全体で学期半ばに中間発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎			
比較文化演習Ⅲ	2	選択	比較文化・比較文学・英語文学・比較考古学・比較民族文化学の研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。演習Ⅰ、Ⅱをふまえて、研究対象に対する調査、分析、考察を進め、演習内での発表や討議を重ねたうえで、論文の章立てや論述の流れを考えていく。参考文献の把握と読解を進め、データ収集等の調査が必要な場合は計画を立て実行する。なお、専攻全体で学期半ばに論文作成計画発表を行い、これらの進捗を確認する。		◎				

	比較文化演習Ⅳ	2	選択	比較文化・比較文学・英語文学・比較考古学・比較民族文化学の研究及び修士論文執筆に関する演習を行う。演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをふまえて、研究の成果について演習内での発表や討議を重ねたうえで、修士論文にまとめていく。なお、学期半ばに主指導及び副指導に対して口頭で論文概要発表を行い、修士論文提出の可否について判断を受ける。		◎					
特別講義	日本文化特別講義(社会と文化)	2	選択	社会と文化の関係性の側面として、近代日本の文化や思想をとりあげる。それらを検討する際の論点を把握し、学術的な歴史の文章の書き方を学ぶとともに、研究史に対する理解を深めることを目標とする。日本思想の通史を扱い、俯瞰的に思想史上のトピックを把握することをめざす。具体的には、テキストに沿って日本思想史の論点について検討する。講義形式であるが、授業中に受講者に対して、内容について発問する場合がありますので、事前に授業範囲の予習を行っておくことが求められる。	◎		○				
	日本文化特別講義(文化交流)	2	選択	本授業は、漢籍を引用した奈良・平安時代から大正時代までの日本の古典作品のいくつかを読み解くことによって、日本における中国文化（中国の古典作品やその思想など）受容の一端を理解することを到達目標とする。日本の古典（たとえば『源氏物語』『枕草子』『徒然草』『奥の細道』など）には、多くの漢籍が引用されている。その内容は、『詩経』『易経』『論語』などの経書、『史記』『漢書』などの史書、『老子』『荘子』『孟子』などの諸子から、東晋の陶淵明、盛唐の杜甫、中唐の白居易の詩に至るまで、広範囲なものとなっている。そこで、引用された漢籍を正しく解釈し、その上で、どのように受容されたかを考察する。このように漢籍は日本人の教養の中に知識として融けこみ、それは、いわゆる古典文学だけでなく、たとえば森鴎外・夏目漱石・中島敦・太宰治などの日本の近代文学作品においても、その影響を見て取ることができる。そこで、これらの近代の作者の作品についても、具体的な例をあげながら読み解くこととする。また、漢文受容の際に用いられた日本独自の方法、漢文「訓読」についても学ぶ。	◎		○				
	日本文化特別講義(文学と社会)	2	選択	日本の近代文学を題材にしつつ、社会と文学のかかわりについて考察する。文学を伝えるメディアについての分析を手がかりに、社会的に流通する観念、あるいは人間の感性とメディアとの関係、また、メディアの形態と文学作品との関係について考え、社会・メディア・文学がどのようにつながりを持ちつつ人間の観念を形成しているかを分析する。 まず、メディアが人間の観念・感性とどのような関係にあるかについて考える。そしてメディアと文学作品の関係、メディアと社会通念との関係について考察した後に、具体的な現象として日本の近代文学に現れたメディア及び社会とのかかわりについて、個々の作品を読み解きながら考察する。	○			◎			
	日本文化特別講義(言語と文化)	2	選択	先行文献を批判的に読んで検討することを通して、言語と文化の関係、特に日本語と日本文化の関係について理解を深めると同時に、資料収集・解読能力と論文作成能力の向上を図りたい。言語とは何か。文化とは何か。また言語と文化はどのような関係にあるのか。本授業では、先行文献を批判的に読んで検討することを通して、言語と文化の一般的关系、そして日本語と日本文化の相関関係についての理解を深めると同時に、論理的に問題を分析する能力や問題解決能力を養っていく。	○			◎			
	比較文化特別講義(日中比較)	2	選択	一衣帯水、同文同種と言われる日中間は、文化的にかなり相違点があり、相互理解の妨げにもなる。本授業では、日中間における風俗習慣、対人関係、(非)言語行動、国家・社会意識等の違いをテーマにし、先行文献を批判的に読んで検討することを通して、日中文化の違いについて理解を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力や資料収集・解読能力と論文作成能力の向上を図りたい。国際化がより一層進んでいる今日、必要不可欠な国際感覚を養うために異文化理解が必要である。本授業では、日中比較文化に関する先行研究に対する批判的検討を通して、日本と中国の文化的相違点及びその深層的・文化的な原因を考察すると同時に、日中間異文化コミュニケーション能力を向上させ、問題発見能力と問題解決能力を養っていく。	○			◎			
	比較文化特別講義(日韓比較)	2	選択	日本と韓国の文化（特に現代）について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックを取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○			◎			
	比較文化特別講義(日欧比較)	2	選択	日本とヨーロッパの文化について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックを取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○			◎			
	比較文化特別講義(日米比較)	2	選択	日本とアメリカの文化について、直接・間接の影響関係、共通と相違について考える。具体的なトピックを取り上げて講義とディスカッションを行い、履修者の研究の深化や展開にもつながるようにする。	○			◎			
	Images of Japan : Literature and Film	2	選択	Via a 1000-year process of canonization into a world literary classic, Murasaki Shikibu's The Tale of Genji has become a cornerstone of Japanese and world literature. In English, 4 complete translations exist, all done by major scholars and translators, each done via highly varying approaches to interpreting the text. This course will focus on Genji via comparative translation readings, with historical context of both the tale and its transformation into a fixture in world literature.				◎	○		
	Variable Topics in Culture and Society in Japan	2	選択	Although foreigners have studied and analyzed many unique aspects of Japanese culture since the 16th century, it is still difficult for them to understand how the Japanese think and act. This course will explore some of the major Japanese thoughts from the pre-modern as well as modern periods and examine characteristic behaviors of the contemporary Japanese people.				◎	○		
Selected Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択	The course theme for 2020 is Digital Arts in Japanese Culture. We will survey all forms (literature, visual/painting, experience/interactive, popular entertainment, film, anime, etc.) as well as historical/sociological/anthropological studies. Our goal will be to gain better understanding on digital arts in Japanese society, with a balance between mainstream and avant garde, subculture, and underground movements. We will also study the place of these creative pieces in global context.				◎	○			
英文資料講読	2	選択	文学批評や文化批評に関する英文資料を読み、英語の読解力だけではなく、アカデミックな用語や表現に慣れ、自らも使えるようになることを目的とする。前半は環境文学・震災文学の分析を共通の課題として行い、後半に各自それぞれの論文作成と指導を行う。過程を踏みながら、個々の学生のニーズに応えるべく助言、指導を行う。				○	◎			
国際文化特別講義	2	選択	「国際文化」の授業を通じて、異文化を学ぶ・自文化を知るという考え方にに基づき、多角的な視点や広い視野に立っての文化の理解をめざし、長い歴史を担う文化を継承し、新たな文化を形成する理念を養成するための基本知識を皆さんと共有することである。「国際文化」の内容はあまりにも膨大なので、本講義は、日中の文化交流や比較に絞って、年代時間を軸にすることでなく、ジャンル別に分けてその歴史、思想、文学・芸術、社会、生活、宗教などさまざまな分野での実態を観察し、その奥にあるものを洗い出すことによって国民性・民族性など文化に関する諸問題を探求する。				◎	○			

分野 共通 科目	英語コミュニケーション(論文作成法)	2	選択	この授業の目的は、英語のレポート作成や修士論文執筆に必要なアカデミック・ライティングの表現方法と表現形式を学ぶことにある。特に、学術的な文章で求められる文体や書式、表記などの決まりごとを知り、適切なレベルの語彙を習得し要約能力を向上させることを目指す。また、一次資料と二次資料を駆使しながら自分の考えを適切に構成し、論理を展開する力がつくよう留意したい。			○	◎	
	英語コミュニケーション(作品講読)	2	選択	英米文学の国際小説の代表的作品を読み、英語力を高めながら、文化・慣習の違いが異文化交流に及ぼす影響についての理解を深めることを目標とする。原書の精読とその原書を基に制作された映画鑑賞を通して、心理描写の英語表現と会話の英語表現を学び、異文化交流における振る舞い方と他者理解について考察する。			○	◎	
	日本語コミュニケーション(上級文章作成法)	2	選択	この授業では、大学院生に必要な日本語の文章作成の基本を学ぶ。素材文を用いて、各種文章の目的・内容・構成、表現に注目し、問題点を探し出し、最も相応しい表現は何かを判断する力を養う。また、授業時の活動や課題では、目的の異なる素材文を改稿する。文章を書く課程や推敲ではピア学習を取り入れる。学生同士で相互に分析・批評しあうことで、読み手の視点を意識しながら書くことを学び、書く時に必要不可欠なより良い視点を広げる。			○	◎	
	日本語コミュニケーション(作品講読)	2	選択	近現代の日本語の文章(批評・翻訳・随筆・小説など)を読みつつ、大学院での学習、研究に必要な日本語の読解力を養うことを目標とする。正確に文意を読み取る力を身につけることが優先的な課題であるが、併せて、読解を通じて文化的現象を研究する際の留意点にもふれ、また、日本文化について理解を深めることも目指す。精読をとおして難解な部分、意味の不明確な部分ができる限り明確になるよう解説する。授業は、それぞれの文章について発表者をきき、発表者の報告をもとにディスカッションし、理解を深めていくという方法で行なう。履修者は必ず1回は発表し、発表のない場合も自分の意見をまとめておくことが求められる。			○	◎	
	インターンシップ	2	選択	インターンシップは院生のキャリア形成に重要な実践教育の一つである。履修生は、大学院で勉強した専門知識と語学力を活かし、企業、公的機関、民間団体などで就業体験をする。そして、社会人としての技能や態度を磨き、修了後の国際舞台での活躍に寄与する。			○	◎	
	グローバル実地研修	2	選択	これまで学んだ教養知識を、現地を訪問することで確認し、事後あるいは論文作成の過程で、各自の研究テーマの視点から課題を設定し、考察するなど、今後の研究に生かす。			○	◎	

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和と包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」